

「ねね」には実家と養家があります

豊臣秀吉はその氏素姓がはっきりしません。特に父親です。しかし戦国時代には大名、大将クラスでも二代前、三代前について当時でも名前がはっきりしませんし、氏素姓がわからない人が多くありました。

例えば美濃国をかすめ取った斉藤道三も父親の名が分かる位です。明智光秀に至っては父親の名前も当時公表されていません。

加藤清正も福島正則も秀吉の遠縁と言っていますが、氏素姓ははっきりしません。

さて今回は天下人になった豊臣秀吉の正妻で、後に北政所（きたのまんどころ）と呼ばれた「ねね」の実家はどのような家だったのか、そして秀吉存命中の一族処遇、秀吉没後の徳川政権でどのように処遇されたのかを調べてみましょう。

ここで先ず、秀吉の正妻が何と呼ばれていたかです。

これまで「ね」又は「おね」と呼ばれていたとの説が多かったのです。漢字で表すと禰又は「祢」になります。「おね」の“お”はていねいに称して“お”を付けたのですから本名は「ね」だと。

次に、いや本当は「ねね」又は「おねね」と呼ばれていたんだよとの説。漢字では「禰々」・「祢々」となります。“お”は同じくていねいの“お”ですから本名は「ねね」とであると。

それぞれ根拠があります。

北政所自筆文書（手紙）に自らを「ね」と記しています。しかし秀吉が出した文書では「禰々」と書いているものがあります。

「ねね」説をとる人は当時の女の人で一字の人はいない。二字以上である。「ねね」が「ね」と一文字で自ら署名したのは当時女の方は自分の名を一文字だけで署名する習慣があったと。例えば「まつ」は「ま」（加賀前田家の正妻）と署名している。

こうして「ねね」説が有力になってきたのです。

しかし近年足守木下家系図には「子為」、「於祢居」、「寧子」、「寧」があり、これから「ねい」、「おねい」、「ねいこ」、「ねー」と呼ばれていたのではないかとされる説が出てきています。

足守（あしもり）木下家は「ねね」の実家の兄の家系です。しかし絶対正しいとも言えません。家系図ができたのは江戸時代に入ってからですから。

NHKのこれまでの大河ドラマでは何度も北政所は現れますが、「ね」だった

り「ねね」だったりですが、現在放映中の真田丸では字幕には「寧」と表記しています。最近説を取り入れています。“ねい”とか“ねー”とか呼んでいると思います。

それから北政所の正式の名称、すなわち朝廷への届けでは「吉子」です。「寧子」という説もあるのですが、「吉子」でしょう。「吉」は秀吉の「吉」です。「ねい」は従一位に叙任していますので、その時は幼名や北政所（豊臣家の名前）ではなく正式に名前を作ります。それが「吉子」です。普段は使いません。

名前はここまでにしますが、ここでは以後一応「ねね」の呼び名でとおします。

「ねね」のお家は歴とした侍の家です。織田家の家来です。父親の名は杉原裕久（又は定利）、母の名は朝日です。1548年（天文17年）尾張国（愛知県）愛知郡で生まれました。兄弟姉妹は、兄は家定、長女が「ねね」、妹がいた説もありますがはっきりしません。

そして「ねね」は親類の浅野家（当主は長勝）に養女にいきます。その後秀吉と結婚します。秀吉との結婚は1561年（永禄4年）です。「ねね」14歳、秀吉26歳でした。

「ねね」がなぜ養女にいったかは不明です。確かに浅野家には子供いなかったようで、男の子も養子として迎えています（安井家から長政）。しかし二人は結婚せずに「ねね」は秀吉に嫁ぎ、長政は外から嫁を迎えます。

それからもう一つ分かりにくいのが、実家の杉原家が名字を杉原から木下に名前を変えます。

いつのことかははっきりしません。

秀吉が木下を名乗り、織田家で出世してきたので「ねね」の実家の杉原家があやかって木下に改名した。いや秀吉が侍になるときに名字が必要となり、手近かの「ねね」の実家の名字を拝借したとの説もあります。はっきりしません。

とにもかくにも「ねね」の親類は生家の木下家（杉原を改名）と養家の浅野家となります。

まず木下家です。

兄の家定（1543～1608年）は秀吉の出世でまあまあ昇進します。秀吉時代も徳川家康時代も大きな大名にはなれませんでした。最後は備中の足守藩主（2.5万国）でした。この人は秀吉亡き後は「ねね」の守護役として有名で、家康からもそれなりに処遇されました・

子供は男子が5人いました。「ねね」のおいで、「ねね」は子供のころから可

愛がっていました。

長男は、勝俊で長嘯子（ちょうしょうし）の名で当時歌人として有名でしたが、関ヶ原の戦いの折、伏見城から逃げたので、戦後家康から叱責され失脚しました。武将としては三流のようです。

次男利房は、秀吉時代に小大名にしてもらっていましたが、関ヶ原の戦いで、家康に敵対して一旦失脚しましたが、大阪の陣の功績で、父親の備中足守藩を継承しました。「ねね」の家康への口利きでしょう。同家は江戸時代、明治以降も今日も存続します。

三男延利は関ヶ原では東軍に属して、戦後家康から豊後国速見郡に3万石をもらいました。

四男俊定は早世しました。

五男秀秋は有名すね。幼い時から秀吉に可愛がられ養子とされ、「ねね」に育てられました。一度は秀吉の後継者かとも言われました。秀吉に子ができ、そうならなかったですが、名門小早川家の養子となり、17歳で朝鮮再征軍の総大将となりました。

関ヶ原の戦いでは家康との約束で、戦場で西軍から東軍（家康側）に寝返って家康勝利に大貢献しました。「ねね」が家康に付くように言ったそうです。戦後は備前、美作で50万国の大大名となりましたが、1602年、21歳で病没。子供なしでお家断絶です。

次に養家の浅野家です。

前述しましたよう長勝には男子がいなかったようで、長政は長勝の養子です。「ねね」も養女です。秀吉とは相婿となります。

浅野家も織田家の家来で、信長死没後は秀吉の、秀吉死没後は徳川家康の家来になりました。

信長、秀吉、家康の天下のもとで、養子長政と長政の子ら3人が活躍して浅野本家は江戸時代も隆盛です。

長政は秀吉の相婿の関係で秀吉に重用され、秀吉の末期に五奉行の一人となります。関ヶ原の戦いでは子供ら共に徳川家康につきまします。長男幸長は和歌山城主、38歳で病没。子供なく弟の長晟（ながあきら）が遺領を継承し後に安芸、備後で42万石の大大名となります。長政は隠居しますが、常陸に隠居料として5万石もらいます。長政亡き後は三男の長重が受け継ぎます。

長重の子の長直の時に赤穂に転封となります。長直の孫が長矩（ながのり）です。

ええそうです。あの忠臣蔵のお殿様、浅野内匠頭長矩（たくみのかみ ながのり）です。

ですから忠臣蔵の浅野は本家安芸浅野の分家の筋になります。
 名門浅野本家も事件を起こした分家の長矩や四十七士はかばい切れなかった
 のです。
 余談になりますが、裁断を下した綱吉将軍が死没後、四十七士の家族は赦免
 されましたが、あの大石内蔵助の三男は本家の安芸の浅野が引き取り、家臣と
 しました。

さらに異説をご紹介します。

- 「ねね」には妹がいて浅野長政に嫁いだとの説。
- 「ねね」の実家の杉原家（木下に改名）は秀吉の家とはもともと親類だっ
 ったとの説。
- 「ねね」が浅野家に養女にいった理由は、「ねね」の母親（朝日）が秀吉と
 の結婚を許さなかったで、親類の浅野長勝が養女として「ねね」を引き取
 り、秀吉と結婚させたとの説

異説は本当かどうかはつきりしません。

以上

2016年8月7日

梅 一声

「ねね」の家系図

